



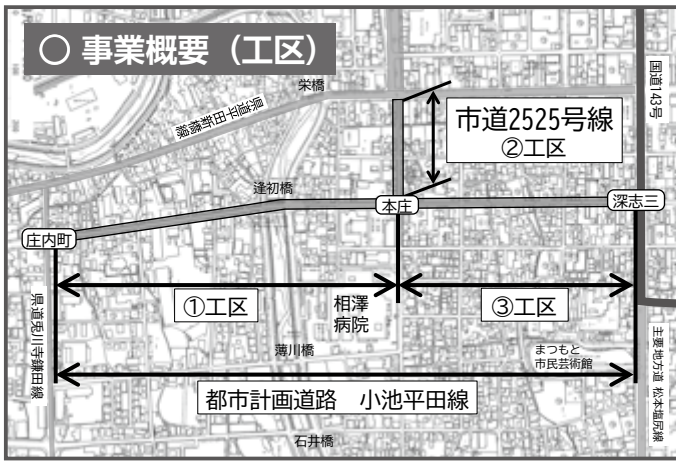
令和5年9月1日現在	
総世帯数	1,364世帯
総人口	2,405人
男	1,148人
女	1,257人

### 常盤町の未来

常盤町町会  
市川 英夫

これからの文章は筆者の個人的な意見・感想であり、常盤町を代弁するものではありません。

最近の話題といえば、セイジオザワ松本Fとコロナによる規制のない第一地区益踊り



大会だと思ふ。しかし、常盤町では、町内のご真ん中を南北に通る市道の拡張の話である。そしてこの拡張が常盤町の存続に関わるかもしれないと思われる。

街づくりは、50年100年と長い年月が必要だが、常盤町には10年20年先の不安がある。現在、空地・駐車場が目立つ。道路拡張によって更に空地・駐車場が増し、引越等々で住民が減少。現在でさえ高齢化が進み町会活動に影響が出ていて10年後、更に影響が出るのは必然だと思ふ。少なくとも、長沢川の清掃・公園の草刈り、避難訓練等々に影響が出ると思われ

る。年齢を重ねると、体力・知力、そして経済力が心配になると、多くのお年寄りが言っている。道路拡張には反対しないが、10年後には生きているかどうか

もわからないのに20年後なんて無理だ。もし生きていても、拡張の時の家の片付けや引越しの体力があるのか？老後の資金はどうなるか？その時になって気が付く問題が多々あると思ふ。

「あの頃ならできた」と思わないよう、松本市には早期に事業を行ってほしい。道路拡張後の常盤町の姿をどのように松本市は考えているのでしょうか。このままでは常盤町はなくなるかも？

願わくば、拡張された道路の脇にいろいろな建物が建築され、多くの人が住み、華やかに22世紀の手本になるような街並みになってほしい。

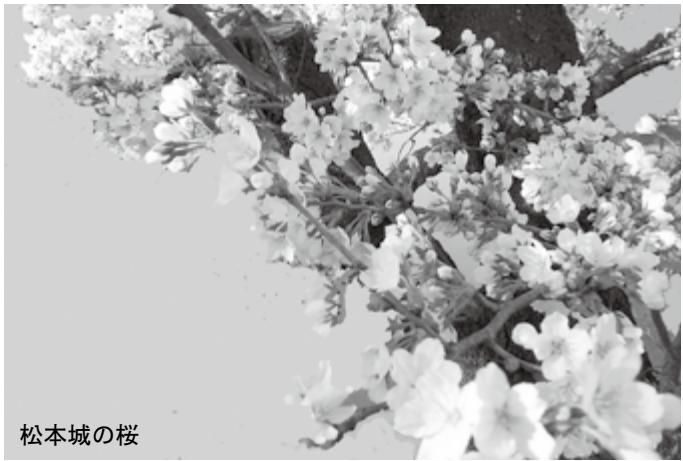
### 花からもらう力

飯田町二丁目町会  
村上 圭子

温暖化のせいだろうか。今春の桜の開花は早く、松本市も三月下旬には、満開を迎えていた。

ちょうど同じ頃、テレビで福島の富岡夜の森地区の桜並木が報道された。地元では桜の名所として有名ならしい。

ずっと続く満開の桜並木は見事で迫力があり、息を飲む様子が画面を通して伝わって



松本城の桜

年この桜を見に来たい。「復興再生を願いたい。」と、口々に答えていた。まるで満開の桜の下での誓いのように聞こえた。新しい出発に心から応援したいと思つた。

桜の花は、日本人にとってやはり特別な花だ。満開時となれば花見に出掛けたいと思う衝動に駆られる。桜を見ると心がいやされ気分もリフレッシュ。明日から頑張ろうという勇気をもたらえる花だ。猛暑続きの夏も終

きた。大変な災害であった東日本大震災。想定外の津波で原発事故が発生した地区である。あれから十年以上の歳月をかけて、ようやく帰還困難区域の避難指示が解除されたのだ。偶然にも桜の満開と重なり多くの人が、押しかけ賑わいを見せていた。その当時、目に見えない放射能に怯えながら、切羽詰まった状態で、住み慣れた土地から避難を余儀なくされた人たちが。言葉では言い尽くせない苦い経験をした人たちが、インタビューに「毎

日、庭の片隅には、ホトトギス、彼岸花が咲いている。何気ない花を眺めていても、心が安らぎ気分が落ち着くのは不思議。花には、人間の心を揺さぶる大きな力があると、いつても過言ではない。すべての花に感謝の気持ちでいっぱいだ。



